

令和7年3月13日

まちづくり委員会資料

二ヶ領本川上流部の整備等の
検討状況について

建設緑政局

二ヶ領本川上流部の整備等の検討状況について

1 背景

- ・本市の河川は、全国的な整備水準である時間雨量50ミリ(3年に1回程度)の降雨に対応できる河川改修を進めており、令和6年4月1日現在の河川整備率は約90%となっている。
- ・一級河川二ヶ領本川は、五反田川との合流部より上流側が未改修となっている。
- ・二ヶ領本川上流部の対策については、二ヶ領本川上流部に流入する旧三沢川流域を他河川に放流することで50ミリ対応となり、二ヶ領本川沿川の洪水被害の軽減が図られることから、その整備等の検討を行うこととした。



2 多摩川水系三沢川河川整備計画での位置づけ

- ・二ヶ領本川上流部に流入している普通河川旧三沢川については、東京都と神奈川県が平成27年4月に策定した「多摩川水系三沢川河川整備計画」において、1時間あたり50ミリの降雨により発生すると想定される洪水を河道により安全に流下させることとされている。
- ・旧三沢川の放流先について神奈川県と協議した結果、同計画を踏まえて、神奈川県が管理する一級河川三沢川に流入させることを確認した。

3 整備等の検討状況

(1) 整備方針

二ヶ領本川上流部に流入する旧三沢川流域を三沢川に放流し、二ヶ領本川上流部を時間降雨50ミリ対応とする。

(2) 現況と課題

- ・旧三沢川は、三沢川からの流入はなく、沿川から雨水等が流入している。
- ・旧三沢川沿川の地盤は、三沢川沿川より低い。
- ・旧三沢川沿川は、住宅地であるため、旧三沢川から三沢川へ放流する経路が限定される。

(3) 対策内容

課題を踏まえて、二ヶ領本川上流部への流入量の軽減を図るため、旧三沢川の流下方向を一部変更し、三沢川へ放流する対策(案)をとりまとめた。

<旧三沢川の対策>

- ① 菅堰付近から指月橋までの延長約110mの河道を嵩上げ勾配を変更し、雨天時の水の約6割を三沢川に流下
- ② 三沢川の流水に対して旧三沢川の流入が与える抵抗を抑制するため、合流箇所を変更



(4) 事業スケジュール

令和7年度 予備設計、令和8年度 詳細設計、令和9年度以降 改修工事